

甲斐市立竜王西小学校 自己評価書

令和 4年 2月 1日 (火) 作成

校長 「新海 淳」 記述者 職名 (教頭) 「大石浩雄」

学校教育目標
「自ら学び、自ら考え、進んで行動する 心豊かでたくましい児童の育成」

学校経営方針

「21世紀を担う人間性豊かで、社会の変化に対応できる生きる力の育成」をめざし、
学校教育の充実に努める。

- (1) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた教育活動を推進する。
- (2) 全ての子どもたちが、「わかる」・「できる」ことが実感できる、楽しい授業づくりをめざす。
- (3) 全職員の協働体制「チーム竜西小」の教育活動を推進する。
- (4) 家庭・地域と信頼し合い、安全で安心な開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

○教職員アンケートから、学教教育目標の具現化に向けて、やるべき教育活動を、まじめに一生懸命に取り組んでいることが伺えるが、昨年度に比べ自身の取組に対してやや厳しめの評価をしている傾向があった。また、ICT 機器の利活用やキャリア教育、協働的な学習といった今日的な教育課題といじめや不登校、登下校の安全指導といった生徒指導の部分については対応や指導に戸惑いや自信の無さが感じられた。○児童アンケートは、肯定的な回答が多く、昨年度と比較すると項目によって多少の増減はあるが、全般的には学校生活を楽しく有意義に過ごせているようである。○保護者アンケートは、各質問とも肯定的な回答が多く、昨年度と比較すると項目によって多少の増減はあるが、子どもが楽しく学校生活を送れていると感じていることや生活習慣にも関心をもって指導している様子が伺える。○創甲斐教育に関わる数値目標については、目標を達成できている項目やそれに近い結果となっている項目がある一方で、前年と比べ数値が下がったものやまだ目標から離れているものもあった。日常的に創甲斐教育の目標数値達成を意識した取組を工夫していきたい。

2 項目ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	肯定的な評価が100%である。全職員が学校教育目標や重点目標を踏まえ教育活動を行ったと言える。P→D→C→A サイクルを生かした教育活動については、学校行事や学年行事においては、ICT の利活用を行い効率的な取組となるように進められた。また日常の授業や学級指導に関しても、人事評価制度や校内研究を活用することで、P→D→C→A サイクルが意識されるようになってきた。今後も P→D→C→A サイクルを生かした教育活動を維持、向上させていく。
------	--

改善策	授業については、単元の学習を単位として年間を通じた P→D→C→A サイクルがつくられるように人事評価制度の目標設定の際の指導助言を充実していく。学級学年経営については、学級力向上アンケートや Q-U のデータをもとにして P→D→C→A サイクルを向上していけるように校内研究の充実を図る。
-----	--

II 学校運営について (保護者用アンケート等も含めて)

達成状況	どの項目についても肯定的評価が多い。特に「他の教職員と連携して協働体制で教育活動にあたる」については高かった。保護者アンケートでも概ねどの項目についても肯定的である。課題としては「報告、連絡、相談、確認」「業務の効率化と働き方改革」について少数の C 評価があった点である。
------	---

改善策	「報告、連絡、相談、確認」の C 評価については日常から組織におけるその重要性を啓発することで改善していく。「業務の効率化と働き方改革」については勤務時間の管理と同時に ICT 機器の利活用を促すことで改善を図る。
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	学習指導全般で意欲的な教育活動が推進されている。「ICT を活用した授業」「協働的な学びを取り入れた授業」「基礎基本の定着のためのモジュールの時間の有効活用」といった新しい教育活動の部分については一層の充実を図ることが課題である。児童、保護者アンケートは概ね良い評価であるが、昨年同様一部「学習内容がわからない」「意欲的でない」といった回答もあった。
改善策	新しい教育活動については各自の実践についての情報交換や研修を促すことで改善をしていく。「学習内容がわからない」「意欲的でない」という部分については、今まで以上に児童一人一人に目を向け個に応じた学習指導ができるようにしていく。
Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	生徒指導全般について、肯定的な回答が多く、教職員は意欲的に取り組んでいる。感染症対策の指導については、保護者約 90% が肯定的に捉えており、児童も 95% 以上が手洗いや消毒をきちんと行っていると回答している。課題としては昨年度から引き続きキャリア教育の部分が他の項目に比べやや数値が低くなっていることがあげられる。
改善策	来年度も教育課程の中でキャリアに関わる学習について見直しを行うとともに、キャリアパスポートの更なる活用を検討し、形骸化しないようにする。
Ⅴ 地域との連携について	
達成状況	どの項目についても肯定的な回答がほとんどである。一昨年度まで課題であった保護者地域への広報についても昨年に続けて改善を維持できた。「地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導」については、A より B 回答の割合が高いことや C 回答があったことから、課題と捉え改善をしていく。
改善策	地域の教育力を生かす場面、方法が教育課程の中で固定化しているために活用している実感が乏しくなっている。教員が主体的に活用方法を考えるように促していく。
Ⅵ 学校の特徴に関して	
達成状況	どの項目についても肯定的な回答である。挨拶の指導については、自己評価に比べ保護者の評価が低いこと、地域住民から「あいさつができていない」という声あることを考えると、課題として捉え一層指導を充実させたい。
改善策	教職員の意識と保護者・地域の捉え方に差があるので、その間をつないでいる児童の変容にしっかりと目を向け、あいさつをする（あいさつができるようになった）児童が周囲から認められるように指導を工夫していく。
Ⅶ 創甲斐教育について	
達成状況	3つの項目とも 100% 肯定的な回答であったことから、創甲斐教育を念頭に置いた学校教育が展開できているといえる。創甲斐教育の中にあげられている数値目標の達成状況については、まだ達成できていない項目があるので、目標達成に向けて一層の改善に努める。

改善策	<p>コロナ禍での児童と地域のつながりや将来への夢や希望については、変化の激しい現代社会の状況に柔軟に対応できるように更なる教育課程の検討やキャリアパスポートの活用方法の検討を進める。</p>
<p>3 まとめ</p> <p> <成 果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定的な結果となり概ね良好である。保護者や地域の方々のご理解ご協力と市教育委員会のご支援に感謝している。今後も「チーム竜王西小」として、組織的な教育活動を行っていきたい。 <p> <課 題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数ではあるが児童アンケートで、否定的な回答をしている児童の存在には十分留意し、保護者、地域、関係機関との一層の連携を図りながら、個別の指導・支援を行う必要がある。ICT の利活用や協働的な学習など今日的な課題については、各自が実践経験を積み上げることとその経験をもとにして校内での研修や情報交換を充実させていきたい。 	